

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873900702
法人名	有限会社 別当
事業所名	グループホーム コスモス
所在地	宇和島市三間町黒川385-1
自己評価作成日	平成 24 年 10 月 30 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24年 11月 20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

それぞれの利用者が、それぞれの能力に応じて、自立できるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から8年を経過し、職員間にはあうんの呼吸がありケアの連携がスムーズである。経験豊富な職員も多く、利用者との繋がりを深めることができ、居場所づくりに役立っている。また、地域住民との繋がりを深める目的で多目的スペースを増築し、利用者の日中活動を活性化している。テーブルのあるスペースがあるが、「転倒しても怪我がないように」との管理者の配慮から畳を敷いている。これまでの実績を踏まえ、利用者へのさらなるサービス向上を模索している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホーム コスモス
(ユニット名)	こでまり
記入者(管理者)	
氏名	秋本コマ子
評価完了日	平成 24 年 10 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 管理者及び職員は、地域と密着した理念を理解・共有して介護の実践に繋げている。	
			(外部評価) 理念は2年前に見直して、管理者は言葉の中身を日々確認することが重要だと実感している。また、利用者の変化に合わせて、サービスの質を見つめ直す必要を感じている。福祉業務における理念の必要性について、しっかりと職員の話合いがされて、共有化が図られている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 事業所は地域の自治会に加入し、地域行事には必ず参加している。併せて事業所の主催する行事には自治会を通じて住民の参加を仰ぎ、また、地元小学生の登下校時には挨拶を交わすなどして交流を図っている。	
			(外部評価) 職員は近隣の高齢者の状況を把握しており、近所付き合いができるよう積極的に働きかけている。また、小学生との交流も継続的に行っており、地域の福祉教育の場として貢献している。職員は、地区の老人会の活動を活性化させるため、支援策を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の会合等の場を利用して、介護の現場で積み上げた経験と実践を伝え、認知症の人の理解と支援の方法を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 介護する上での成果や課題について、運営推進会議の 場において具体的事例を示しながら意見交換を行い 「家族便り」等を通じて報告し理解を得、実践しなが らサービスの向上に努めている。	食事の味付けや季節の飾り付け、また催し物の企画に 地域の要素を取り入れるなど、地域住民の目線を活か してサービス内容を検討する会議となるような取組み に期待したい。
			(外部評価) 事業所は行政の建物から離れているため、管理者は運 営推進会議が行政と地域住民をつなげる場となるよう 取り組んでいる。また、会議に合わせて講習会なども 企画しており、地域住民の福祉資源となるよう考えて いる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 常にコンプライアンスの順守に努め、介護上の法的な 疑念が生じた場合には、行政の担当部局に意見を求め 協力を仰ぎ、適切なケアサービスとなるよう取り組ん でいる。	
			(外部評価) 管理者は市担当者に事業所の運営面について積極的に 相談を持ちかけ、行政と共に利用者のサービスが向上 するよう取り組んでいる。管理者は開設時から行政と 良好な関係を築き、担当者が代わっても丁寧に関わり を継続することで、協力関係は堅固になっている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 利用者の意向を最大限尊重し、外出の希望があれば職 員が同行している。施設玄関は無施錠であり、加えて 身体拘束は一切行っていない。また、全職員が「指定 基準における禁止の対象となる行為」について把握し ている。	
			(外部評価) 経験豊富な職員が多く、利用者に寄り添うケアが自然 に行われている。職員は身体拘束と無縁の介護を行っ ており、利用者は個々の楽しみを持ち自由に暮らして いる。不穏行動がある利用者への安全面への配慮か ら、行政や家族等との相談の上、玄関にはプッシュ式 の鍵を施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 管理者及び職員は、身体的虐待及び言葉による虐待が見過ごされることのないよう、会議やミーティングを通じて、常に注意を払い防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者及び職員は制度の内容について、常に学び理解しようとしている。けれども、後見人制度の運用に困惑する場合がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結・解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の締結・解約の時点で十分な説明を行い納得していただいている。改定の際には運営推進会議や家族会などに提案し、了解を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者家族へのアンケートや、運営推進会議・家族会総会などで出された意見や苦情を運営に反映している。	
			(外部評価) 事業所では家族と利用者の繋がりを継続させるために、利用料を家族等から手渡して受け取っている。この機会を管理者は家族の意見を聞き入れる場としても活用し、家族等の話に耳を傾けることを、開設時から続けている。また、担当職員が家族便りを送付することで、家族等との話を深める工夫も行っている。	長年の付き合いがある家族も多く、事業所に「任せたい」という傾向が強い。そのため、家族と一緒に催し物の準備作業をするなど、家族との関わりに変化を持たせる工夫をして、新たな希望や意見を聞き取る取組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月1日の職員会議により、職員の提案や意見を討論し運営に反映している。	
			(外部評価) 管理者と年齢が近い職員が多く、長期の勤務者も多いため、管理者と職員は何でも話せる良好な関係にある。また、互いに協力して事業所を運営しているという雰囲気がある。管理者は職員の意見を積極的に引き出して、職員が自分で考える機会を多く作っている。出された意見は検討されて運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者（管理者）は常に職員の勤務状況に留意し、個々の努力や能力を把握しており、職員が向上心を持って勤務できるよう努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 各種団体主催の研修や講習に積極的に参加し、その結果をミーティング等で報告し全職員にフィードバックしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会等に参加し、互いの交流を深め情報交換することで、サービスの質の向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービス開始に先立ち、利用者が安心できる環境において、本人の要望や意見を聞き、信頼関係の確保に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス開始に先立ち、家族の要望に最大限配慮し説明し納得してもらい、信頼関係を構築することに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービス開始に先立ち、家族構成、生活歴、病歴等の情報、家族の要望を把握し職員会議において共有しケアプランを作成している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 掃除、洗濯、食事の準備・片づけ等、利用者同士が協力し、個々の能力に応じた作業をすることで、自立を目指している	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族との絆を常に念頭に置き、利用者や家族とのふれあいの機会をできる限り設け、双方の希望や要望の実現に努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) サービス開始に先立ち、利用者の生活歴・家庭環境を詳細に把握し、交流のある方々との連絡を促し、訪問・面談の支援に努めている。 (外部評価) これまでの馴染みの関係が維持できるよう、自宅訪問や友人との関わりを支援している。また、事業所の地域で新たな馴染みの関係が深まるよう支援している。事業所での生活が長くなると、後者の支援が重要となることが多く、利用者の気持ちに考慮しながら、関係の継続や構築に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 個々の利用者の性格や嗜好を把握し、孤立せず支えながら共同生活が送れるような環境作りに努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後も連絡を密にし、必要に応じて相談や支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 常に利用者の声に耳を傾け、希望と意向の尊重に努めている。	
			(外部評価) 利用者本位のケアをするために、利用者への理解が必要であることが職員間で共有されている。表現が難しくなった利用者については、経験豊かな職員が言葉で聞き取るだけでなく、ふとした表情などから気持ちや意向を把握し、職員間で共有するよう努めている。	新しい職員が入り、改めて職員間の共有を確認する良い機会である。利用者の生活歴を職員がそれぞれで書き出し、それを全員で確認し合うなどの取組みに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) サービス開始に先立ち、利用者の生活歴、職歴、住環境、施設の利用歴などの情報の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員会議やミーティングを通じて、一人ひとりの状況を把握し、議論した結果をケアプランに活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 利用者とケアスタッフが、より良く暮らすための課題の解決と、適切な支援の在り方について協議し、定期的・あるいは随時に、家族の要望や医療機関の助言を参考にしながら介護計画を作成し実践している。</p> <p>(外部評価) ケアプランはチームで行うことを基本とし、利用者それぞれの担当職員と計画作成担当者を中心に素案の立案が行われている。判断力がある利用者には直接希望を聞くようにしている。また、モニタリングは担当職員の振り返りを基にケア会議で検討され、ケアプランの適宜見直しが行われている。</p>	客観性のある介護計画のモニタリングが行えるように、目標の達成率を数値化して評価をすることで、さらなる介護計画の見直しにつなげる取組みに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 個々の利用者毎に日々の出来事を記録し、職員間で情報を共有しながら介護計画に活かしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 個々の利用者の多様な事案について、前例にとらわれず臨機応変に対応している。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 地元の自治会行事や祭礼などに参加し交流することで、利用者が心豊かに生活できるように努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入所と同時に、本人や家族の要望を確認し了解を得た うえで医療機関を決定し、適切な医療が受けることが できるよう支援している。	
			(外部評価) 事業所では利用者が希望するかかりつけ医への受診を 基本としているが、事業所の協力医の受診などの支援 も行っている。また、家族等へのアンケート結果か ら、総合病院との関わりを深める予定があり、利用者 への医療的ケアが質の高いものとなるよう努めてい る。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日常の介護における情報等を、看護職員が把握し適切 な受信や看護を受けることができるよう支援してい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 医療機関との連携を密にし、入院の際には、適宜、情 報交換をすることで、安心な治療を受けできるだけ早 期に退院できるよう関係づくりを行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 常に、家族会議や運営推進会議等で体調急変時のや終 末期の対応について説明している。事業所の方針につ いても十分な理解を得ている。	
			(外部評価) 事業所では医療的ケアは行わないとしており、利用者 や家族等に利用開始時に確認をしている。また、利用 者の状態の変化に合わせて、その都度、家族等と話し 合いを持つようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 医療機関や消防などによる訓練を受けており、万一の際の応急処置や初期対応について万全な準備と心構えを整えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 運営推進会議や定例会議において、地域の自治会・消防団などとの連携を確認し協力関係を構築している。また、職員にも安全な避難方法について周知徹底している。 (外部評価) 災害時のマニュアルを作成しており、避難訓練も回数を重ねて、災害対策には安心感がある。廊下には防災用のヘルメットを備え付け、利用者の居室には防災頭巾を用意している。防災頭巾は職員の手作りで、このような準備をすることにより、防災意識もより一層高まっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 開設当初の理念「逆らわず、従わず」に則って、利用者の声に耳を傾け、言葉を掛け合って対応している。 (外部評価) 利用者の尊厳やプライバシーに配慮した対応を心がけている。特に、排泄誘導の声かけでは、他の利用者聞こえないよう耳元でしている。また、職員は地元の者が多く、地元のイントネーションが利用者の安心感を高めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 常に声をかけ、利用者が抵抗なく意志が表現出来たり、自らの判断ができるように、自己決定が困難な場合には家族との情報交換を密にして、可能な限り本人の意思を尊重している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 管理者をはじめ全職員が、利用者一人一人の能力や生活のリズムを把握し、その希望にそった支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 女性の利用者が多く、その人らしいおしゃれや身だしなみができるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 個々の能力を活かしながら、皆で協力しあって、食事の準備・片付けを行っている。	
			(外部評価) 高齢化が進んでいるため、準備や後片付けを行える利用者は少ないが、テーブルについて笑顔で職員を見守っている。利用者に季節を感じてもらえるように、旬の食材を多用し食事の時間が楽しみになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 出来るだけ旬の野菜や果物を、栄養摂取や水分補給に留意しながら、管理者（栄養士）の助言のもとに支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後のケアはもちろん、常に口腔内の清潔保持について気を配り実践している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者の状態に応じて支援している。今後、中長期の課題として、日中の「オムツゼロ」を目指して先進施設の見学等を計画している。	
			(外部評価) 昼間はできるだけトイレでの排泄を支援しており、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣から、声かけや誘導をしている。夜間は睡眠を優先する場合や移動の安全性からポータブルトイレの使用なども行っている。利用者の生活の質を考慮した排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 積極的な野菜（繊維質）の摂取、日々の運動の推進等を行っているが、今後も、個々の利用者の状態に応じた適切な対応を実践していきたい。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴についての希望を聞きながら、あくまで利用者本位に、その能力に合わせた支援をし、楽しめる入浴であることを心掛けている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの希望にあわせて、気持ち良く入浴してもらえるよう支援している。利用者によっては、入浴が苦手な方もおり、タイミングや声かけに工夫をしながら入浴を楽しめるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 入所前の生活習慣を尊重しつつ、できるだけ共同生活になじめるよう、また本人の体調に配慮しながら休息・睡眠がとれるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の用法などに疑義が生じたときは、速やかに医療機関に指示を仰いでいる。職員は常に薬の目的や副作用について理解しようとしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の利用者の趣味や嗜好を勘案しながら、生きがいを持てるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 真夏や真冬・荒天などの時期を除き、可能な限り戸外に出かける機会を設けているが、車酔いや重度の寝たきりの利用者もおられ全利用者が揃って外出することは困難である。	
			(外部評価) 玄関の前庭は山裾に繋がっており、前庭に出るだけで四季の移ろいを感じられる。管理者は、日常的に利用者が前庭に出て外気浴をしてもらえるよう声かけを行っている。また、買い物や外食、レジャーなど、ユニット単位で定期的に外出することを計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個人での管理が不可能な場合を除いて、事務職員のもとで金銭管理をしている。利用者の要望に応じて手渡している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望に応じて電話の取次ぎや手紙のやり取りを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 全ての共用空間において不衛生にならぬよう、利用者や職員・来訪者が気持ちよく利用できるよう配慮している。</p> <p>(外部評価) ダイニングは食事の時間を、リビングは憩いの時間を過ごす空間と使い分けて生活にメリハリをつけている。天候に関係なく気軽に催し物ができる空間があり、2つのユニットが一緒に活動できるスペースも増築されている。共用空間からトイレの出入りが見えないようプライバシーにも配慮され、利用者が居心地良く過ごせる工夫がされている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 食堂や居間のテーブルや椅子の配置に配慮し、利用者が孤立せぬよう、楽しく過ごせるよう工夫している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) ダンスとベッド（洋間）は固定してあるが、その他のレイアウトは利用者の自由であり、個性を尊重している。</p> <p>(外部評価) 居室にはベッドやダンスが備付けられている。利用者は写真や絵など思い思いの物を自由に持ち込んで飾り、個性のある居心地の良い場所になっている。また、畳の部屋を希望する利用者も多いため、対応できるよう準備している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 利用者それぞれに、理解力や判断力に差があるため、個々の能力を把握し、利用者に合わせて安全で安心かつ自立した生活が送れることができるよう日々研鑽している。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3873900702
法人名	有限会社 別当
事業所名	グループホーム コスモス
所在地	宇和島市三間町黒川385-1
自己評価作成日	平成 24 年 10 月 30 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24年 11月 20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

それぞれの利用者が、それぞれの能力に応じて、自立できるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から8年を経過し、職員間にはあうんの呼吸がありケアの連携がスムーズである。経験豊富な職員も多く、利用者との繋がりを深めることができ、居場所づくりに役立っている。また、地域住民との繋がりを深める目的で多目的スペースを増築し、利用者の日中活動を活性化している。テーブルのあるスペースがあるが、「転倒しても怪我がないように」との管理者の配慮から畳を敷いている。これまでの実績を踏まえ、利用者へのさらなるサービス向上を模索している。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム コスモス

(ユニット名) コスモス

記入者(管理者)

氏名 秋本コマ子

評価完了日 平成 24 年 10 月 30 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 管理者及び職員は、地域と密着した理念を理解・共有して介護の実践に繋げている。	
			(外部評価) 理念は2年前に見直して、管理者は言葉の中身を日々確認することが重要だと実感している。また、利用者の変化に合わせて、サービスの質を見つめ直す必要を感じている。福祉業務における理念の必要性について、しっかりと職員の話合いがされて、共有化が図られている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 事業所は地域の自治会に加入し、地域行事には必ず参加している。併せて事業所の主催する行事には自治会を通じて住民の参加を仰ぎ、また、地元小学生の登下校時には挨拶を交わすなどして交流を図っている。	
			(外部評価) 職員は近隣の高齢者の状況を把握しており、近所付き合いができるよう積極的に働きかけている。また、小学生との交流も継続的に行っており、地域の福祉教育の場として貢献している。職員は、地区の老人会の活動を活性化させるため、支援策を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の会合等の場を利用して、介護の現場で積み上げた経験と実践を伝え、認知症の人の理解と支援の方法を共有している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 介護する上での成果や課題について、運営推進会議の 場において具体的事例を示しながら意見交換を行い 「家族便り」等を通じて報告し理解を得、実践しなが らサービスの向上に努めている。</p> <p>(外部評価) 事業所は行政の建物から離れているため、管理者は運 営推進会議が行政と地域住民をつなげる場となるよう 取り組んでいる。また、会議に合わせて講習会なども 企画しており、地域住民の福祉資源となるよう考えて いる。</p>	<p>食事の味付けや季節の飾り付け、また催し物の企画に 地域の要素を取り入れるなど、地域住民の目線を活か してサービス内容を検討する会議となるような取組み に期待したい。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 常にコンプライアンスの順守に努め、介護上の法的な 疑念が生じた場合には、行政の担当部局に意見を求め 協力を仰ぎ、適切なケアサービスとなるよう取り組ん でいる。</p> <p>(外部評価) 管理者は市担当者に事業所の運営面について積極的に 相談を持ちかけ、行政と共に利用者のサービスが向上 するよう取り組んでいる。管理者は開設時から行政と 良好な関係を築き、担当者が代わっても丁寧に関わり を継続することで、協力関係は堅固になっている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 利用者の意向を最大限尊重し、外出の希望があれば職 員が同行している。施設玄関は無施錠であり、加えて 身体拘束は一切行っていない。また、全職員が「指定 基準における禁止の対象となる行為」について把握し ている。</p> <p>(外部評価) 経験豊富な職員が多く、利用者に寄り添うケアが自然 に行われている。職員は身体拘束と無縁の介護を行っ ており、利用者は個々の楽しみを持ち自由に暮らして いる。不穏行動がある利用者への安全面への配慮か ら、行政や家族等との相談の上、玄関にはプッシュ式 の鍵を施している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 管理者及び職員は、身体的虐待及び言葉による虐待が見過ごされることのないよう、会議やミーティングを通じて、常に注意を払い防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者及び職員は制度の内容について、常に学び理解しようとしている。けれども、後見人制度の運用に困惑する場合がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結・解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の締結・解約の時点で十分な説明を行い納得していただいている。改定の際には運営推進会議や家族会などに提案し、了解を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者家族へのアンケートや、運営推進会議・家族会総会などで出された意見や苦情を運営に反映している。	
			(外部評価) 事業所では家族と利用者の繋がりを継続させるために、利用料を家族等から手渡して受け取っている。この機会を管理者は家族の意見を聞き入れる場としても活用し、家族等の話に耳を傾けることを、開設時から続けている。また、担当職員が家族便りを送付することで、家族等との話を深める工夫も行っている。	長年の付き合いがある家族も多く、事業所に「任せたい」という傾向が強い。そのため、家族と一緒に催し物の準備作業をするなど、家族との関わりに変化を持たせる工夫をして、新たな希望や意見を聞き取る取組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月1日の職員会議により、職員の提案や意見を討論し運営に反映している。	
			(外部評価) 管理者と年齢が近い職員が多く、長期の勤務者も多いため、管理者と職員は何でも話せる良好な関係にある。また、互いに協力して事業所を運営しているという雰囲気がある。管理者は職員の意見を積極的に引き出して、職員が自分で考える機会を多く作っている。出された意見は検討されて運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 代表者（管理者）は常に職員の勤務状況に留意し、個々の努力や能力を把握しており、職員が向上心を持って勤務できるよう努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 各種団体主催の研修や講習に積極的に参加し、その結果をミーティング等で報告し全職員にフィードバックしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム連絡協議会等に参加し、互いの交流を深め情報交換することで、サービスの質の向上に努めている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービス開始に先立ち、利用者が安心できる環境において、本人の要望や意見を聞き、信頼関係の確保に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス開始に先立ち、家族の要望に最大限配慮し説明し納得してもらい、信頼関係を構築することに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) サービス開始に先立ち、家族構成、生活歴、病歴等の情報、家族の要望を把握し職員会議において共有しケアプランを作成している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 掃除、洗濯、食事の準備・片づけ等、利用者同士が協力し、個々の能力に応じた作業をすることで、自立を目指している	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族との絆を常に念頭に置き、利用者と家族とのふれあいの機会をできる限り設け、双方の希望や要望の実現に努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) サービス開始に先立ち、利用者の生活歴・家庭環境を詳細に把握し、交流のある方々との連絡を促し、訪問・面談の支援に努めている。 (外部評価) これまでの馴染みの関係が維持できるよう、自宅訪問や友人との関わりを支援している。また、事業所の地域で新たな馴染みの関係が深まるよう支援している。事業所での生活が長くなると、後者の支援が重要となることが多く、利用者の気持ちに考慮しながら、関係の継続や構築に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 個々の利用者の性格や嗜好を把握し、孤立せず支えながら共同生活が送れるような環境作りに努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後も連絡を密にし、必要に応じて相談や支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 常に利用者の声に耳を傾け、希望と意向の尊重に努めている。	
			(外部評価) 利用者本位のケアをするために、利用者への理解が必要であることが職員間で共有されている。表現が難しくなった利用者については、経験豊かな職員が言葉で聞き取るだけでなく、ふとした表情などから気持ちや意向を把握し、職員間で共有するよう努めている。	新しい職員が入り、改めて職員間の共有を確認する良い機会である。利用者の生活歴を職員がそれぞれで書き出し、それを全員で確認し合うなどの取組みに期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) サービス開始に先立ち、利用者の生活歴、職歴、住環境、施設の利用歴などの情報の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員会議やミーティングを通じて、一人ひとりの状況を把握し、議論した結果をケアプランに活かしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者とケアスタッフが、より良く暮らすための課題の解決と、適切な支援の在り方について協議し、定期的・あるいは随時に、家族の要望や医療機関の助言を参考にしながら介護計画を作成し実践している。 (外部評価) ケアプランはチームで行うことを基本とし、利用者それぞれの担当職員と計画作成担当者を中心に素案の立案が行われている。判断力がある利用者には直接希望を聞くようにしている。また、モニタリングは担当職員の振り返りを基にケア会議で検討され、ケアプランの適宜見直しが行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個々の利用者毎に日々の出来事を記録し、職員間で情報を共有しながら介護計画に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 個々の利用者の多様な事案について、前例にとらわれず臨機応変に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地元の自治会行事や祭礼などに参加し交流することで、利用者が心豊かに生活できるように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入所と同時に、本人や家族の要望を確認し了解を得た うえで医療機関を決定し、適切な医療が受けることが できるよう支援している。	
			(外部評価) 事業所では利用者が希望するかかりつけ医への受診を 基本としているが、事業所の協力医の受診などの支援 も行っている。また、家族等へのアンケート結果か ら、総合病院との関わりを深める予定があり、利用者 への医療的ケアが質の高いものとなるよう努めてい る。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日常の介護における情報等を、看護職員が把握し適切 な受信や看護を受けることができるよう支援してい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 医療機関との連携を密にし、入院の際には、適宜、情 報交換をすることで、安心な治療を受けできるだけ早 期に退院できるよう関係づくりを行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 常に、家族会議や運営推進会議等で体調急変時の対応 について説明している。事業所の方針についても十分 な理解を得ている。	
			(外部評価) 事業所では医療的ケアは行わないとしており、利用者 や家族等に利用開始時に確認をしている。また、利用 者の状態の変化に合わせて、その都度、家族等と話し 合いを持つようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 医療機関や消防などによる訓練を受けており、万一の際の応急処置や初期対応について万全な準備と心構えを整えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 運営推進会議や定例会議において、地域の自治会・消防団などとの連携を確認し協力関係を構築している。また、職員にも安全な避難方法について周知徹底している。 (外部評価) 災害時のマニュアルを作成しており、避難訓練も回数を重ねて、災害対策には安心感がある。廊下には防災用のヘルメットを備え付け、利用者の居室には防災頭巾を用意している。防災頭巾は職員の手作りで、このような準備をすることにより、防災意識もより一層高まっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 開設当初の理念「逆らわず、従わず」に則って、利用者の声に耳を傾け、言葉を掛け合って対応している。 (外部評価) 利用者の尊厳やプライバシーに配慮した対応を心がけている。特に、排泄誘導の声かけでは、他の利用者には聞こえないよう耳元でしている。また、職員は地元の者が多く、地元のイントネーションが利用者の安心感を高めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 常に声をかけ、利用者が抵抗なく意志が表現出来たり、自らの判断ができるように、自己決定が困難な場合には家族との情報交換を密にして、可能な限り本人の意思を尊重している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 管理者をはじめ全職員が、利用者一人一人の能力や生活のリズムを把握し、その希望にそった支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 女性の利用者が多く、その人らしいおしゃれや身だしなみができるよう支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 個々の能力を活かしながら、皆で協力しあって、食事の準備・片付けを行っている。	
			(外部評価) 高齢化が進んでいるため、準備や後片付けを行える利用者は少ないが、テーブルについて笑顔で職員を見守っている。利用者に季節を感じてもらえるように、旬の食材を多用し食事の時間が楽しみになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 出来るだけ旬の野菜や果物を、栄養摂取や水分補給に留意しながら、管理者（栄養士）の助言のもとに支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後のケアはもちろん、常に口腔内の清潔保持について気を配り実践している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者の状態に応じて支援している。今後、中長期の課題として、日中の「オムツゼロ」を目指して先進施設の見学等を計画している。	
			(外部評価) 昼間はできるだけトイレでの排泄を支援しており、利用者一人ひとりの排泄パターンや習慣から、声かけや誘導をしている。夜間は睡眠を優先する場合や移動の安全性からポータブルトイレの使用なども行っている。利用者の生活の質を考慮した排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 積極的な野菜（繊維質）の摂取、日々の運動の推進等を行っているが、今後も、個々の利用者の状態に応じた適切な対応を実践していきたい。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴についての希望を聞きながら、あくまで利用者本位に、その能力に合わせた支援をし、楽しめる入浴であることを心掛けている。	
			(外部評価) 利用者一人ひとりの希望にあわせて、気持ち良く入浴してもらえるよう支援している。利用者によっては、入浴が苦手な方もおり、タイミングや声かけに工夫をしながら入浴を楽しめるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 入所前の生活習慣を尊重しつつ、できるだけ共同生活になじめるよう、また本人の体調に配慮しながら休息・睡眠がとれるよう支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の用法などに疑義が生じたときは、速やかに医療機関に指示を仰いでいる。職員は常に薬の目的や副作用について理解しようとしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 個々の利用者の趣味や嗜好を勘案しながら、生きがいを持てるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 真夏や真冬・荒天などの時期を除き、可能な限り戸外に出かける機会を設けているが、車酔いや重度の寝たきりの利用者もおられ全利用者が揃って外出することは困難である。	
			(外部評価) 玄関の前庭は山裾に繋がっており、前庭に出るだけで四季の移ろいを感じられる。管理者は、日常的に利用者が前庭に出て外気浴をしてもらえるよう声かけを行っている。また、買い物や外食、レジャーなど、ユニット単位で定期的に外出することを計画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個人での管理が不可能な場合を除いて、事務職員のもとで金銭管理をしている。利用者の要望に応じて手渡している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望に応じて電話の取次ぎや手紙のやり取りを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 全ての共用空間において不衛生にならぬよう、利用者や職員・来訪者が気持ちよく利用できるよう配慮している。	
			(外部評価) ダイニングは食事の時間を、リビングは憩いの時間を過ごす空間と使い分けて生活にメリハリをつけている。天候に関係なく気軽に催し物ができる空間があり、2つのユニットが一緒に活動できるスペースも増築されている。共用空間からトイレの出入りが見えないようプライバシーにも配慮され、利用者が居心地良く過ごせる工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 食堂や居間のテーブルや椅子の配置に配慮し、利用者が孤立せぬよう、楽しく過ごせるよう工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ダンスとベッド（洋間）は固定してあるが、その他のレイアウトは利用者の自由であり、個性を尊重している。	
			(外部評価) 居室にはベッドやダンスが備付けられている。利用者は写真や絵など思い思いの物を自由に持ち込んで飾り、個性のある居心地の良い場所になっている。また、畳の部屋を希望する利用者も多いため、対応できるよう準備している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者それぞれに、理解力や判断力に差があるため、個々の能力を把握し、利用者に合わせて安全で安心かつ自立した生活が送ることができるよう日々研鑽している。	